



# 新しい朝

府中市立府中第十中学校  
学校だより No.11  
平成30年1月15日

## 人の基本

校長 竹内 康裕

新しい年が始まりました。本年もよろしくお願ひいたします。

「元旦の朝の天気は?・・・晴れ?」多くの人から「元旦の朝は穏やかで、すっきりと澄み切って晴れていた」というような答えが返ってきます。私も、なぜかいつの年でも元旦が晴れているという記憶しかありません。もしかしたらそれは自分たちの気持ちの表れなのかもしれません。大晦日、除夜の鐘と共に自分のこの一年間を振り返り、「今年こそは」という新たな気持ちが元旦を「穏やかな澄み切った朝」というイメージに変えているのでしょうか。お正月の意義を感じます。

情報化が急速に進み、変化の激しいこれからの社会に向けて、様々な視点からこれからの子供たちに求められる様々な「力」が論じられています。その内容を読んだり聞いたりしながら、それぞれに「なるほど」と納得をします。では、その中で最も大切なことは何であるのか、そのようなことに順位をつけるのはいかかなものかという自制を無視し、あえて考えてみた時、私はそれが「人として守らなければならないことをきちんとやり続ける力(=「人の基本」)」だと思います。

「人に会ったら『こんにちは』、「何かをしてもらったら『ありがとう(ございます)』、「間違えたなら『ごめんなさい』、「呼ばれたら『はい』、「時間を守る」「いじめはいけません」「嘘をついてはいけません」等々、当たり前のことです。私たちはこれらのことを親や親戚、地域の方々からも幼い頃から愛情をもって躰けられ、地域や学校でも実践を通して身に付けています。礼儀正しく、温かく、素直で思いやり深いこと。このようなことが私の考える「人の基本」としての力です。

ところが、これを本当に理解して常にきちんとやり続けることは、なかなか大変なことです。社会人でもできていない人がかなりいるようです。学校社会の中でもそうでしょうが、実社会に出て仕事をするようになったとき、この「人の基本」の力が弱かったり、まだまだなのに「自分は大丈夫だ」などと勘違いをしたりしているようでは、その人には良いことはやってきませんし、他への迷惑にもなります。

例えば、当たり前の礼儀を怠るがために、それが積み重なってつまらないことで発生するトラブル。その結果、対応のために、余計な(仕)事や時間が増えたり、本来の自分がすべき(仕)事の質まで悪くなったりします。何もいいことはありません。相手を思いやり礼儀を尽くしながらの対応や仕事には、例え失敗があったとしても相手は自分を大切にしてくれます。他の事も気持ち的には影響少なく進むことでしょう。

この礼儀、形だけが正しくても、その人が礼儀正しいとはなりません。例えば、口から発せられる挨拶は完璧だけど、感覚的にどこか無礼な人。きちんとした敬語を話せるのは人としての基本です。しかし、態度や行動が伴わなければそれは慇懃無礼となります。文字としては礼儀正しいものであっても、気持ち、表情や態度というものは多分に感覚的に伝わりますから、かえって失礼になります。

相手を尊重することこそ「人の基本」の本質と考えます。きちんとした挨拶をするのは、相手に敬意を表すためです。お礼は相手の行為に感謝を心から示すものです。謝罪は相手に迷惑をかけたことについて心からのお詫びを示すためのものです。謝れなかったり、「ごめんなさい」の前に失敗の言い訳が発せられたりする人がいるとしたら、それは相手よりも自分のことを守りたい気持ちが強く出てしまっているからです。他にも、相手の時間を奪わないための時間厳守、相手の誠意と正反対にある「嘘」など、相手を尊重することが「人の基本」であり、そういう人が幸せであり、あるいは将来必ず幸せになるのだと思います。

もちろん、「自分を大切にすること」も大切です。自己の向上や安定は人として本質的な願いであり、幸せに向けたひとつの道です。社会生活においては、相手のことを自分のことと同じように大切に考え尊重していること、これがこれからの社会の中で最も大切な力だと思います。

保護者の皆様、地域の皆様、本年も引き続き本校の教育活動へのご理解とご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## ■□ 成人の日記念『青年の集い』 ■□

1月8日（祝）、府中の森芸術劇場にて、「青年の集い」が行われました。

今年の新成人は、平成25年度の中学校卒業生です。その年の十中の卒業生は92名でした。中学校を卒業してわずか5年ですが、立派な大人を感じさせる新成人が多かったです。



市長さんをはじめ、教育長さんや市議会議員さんなど、ご来賓の方々からのご挨拶とご祝辞に続いて、新成人の言葉、中学校時代の恩師（先生）からのメッセージをスライドにしたものが上映されました。また、アトラクションとして、府中市の伝統芸能である武蔵国府太鼓と府中市中学校連合合唱団による合唱の演奏がありました。連合合唱には、十中からも12名の生徒が参加しました。1曲目の「群青」は、東日本大震災の影響で心を痛め、音楽の授業で声が出なくなった福島県南相馬市立小高中学校の生徒たちのために、音楽の先生が生徒たちの日記や言葉を歌詞にして作った曲です。新成人の皆さんは美しいハーモニーに聴き入り、また、強く生きている被災者の皆さんへの思いを胸にし、会場は感動に包まれていました。2曲目の「翼をください」では、上原先生の指揮によって客席も一緒に全員合唱し、青年の集いは幕を閉じました。未来に向けて夢と希望を感じさせる素晴らしい合唱でした。その中でも、十中生はひとときわ輝き、曲のメッセージを体全体で表現しながら歌っていました。いつも思うことですが、十中生は本当に「いい表情」で歌います。



3年生は5年後、2年生は6年後、1年生は7年後に成人を迎えます。今から楽しみです。

## 保護者の皆様へ

これまで本校としては、保護者の皆様のご協力を得ながら、安全、安心、楽しい学校生活づくりに取り組んできております。

昨年の12月の全校朝礼で「体罰や暴力のない楽しい学校生活づくり」を目指し、生徒に「暴力は絶対にしてはならないこと」について講話を行い、その後、各学級において、安心して楽しい学校生活を送ることができるようにするためにアンケート調査を行いました。そして、少しでも「気になることがある」と答えた生徒については校長・副校長が面接を行いました。幸いにして、現時点では、「体罰」や「暴力」による深刻な問題はありませんでした。

ご家庭におきましても、お子様の声に耳を傾けたり、学校生活における出来事等について話し合う機会をもったりするとともに、「人（自分も、他人も）を大切にすること」や「暴力は絶対にしてはならないこと」についてご確認の上、何かお子様についてご心配なことがありましたら、いつでも、どんなことでも学校にご相談くださいますようお願いいたします。

府中市立府中第十中学校長 竹内 康裕